

民報あばしり

NO.910
2013/3/17
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七

TPPオール北海道で断固反対!

農協をはじめ

関係団体が緊急集会

3月10日、オホーツク圏活性化期成会（会長 水谷洋一網走市長）は、TPPから「地域」「経済」「生活」を守るオホーツク緊急集会をエコーセンターで開きました。共催はオホーツク農業協同組合長会、北見地区農民連盟、北見管内漁業協同組合、オホーツク管内森林組合振興会、オホーツク商工会議所協議会、北海道オホーツク管内商工会連合会、網走建築業協会、網走管内消費者協会連合会となつています。北海道オホーツク総合振興局が後援してしました。

集会では、自由化に伴う国境措置撤廃は、オホーツクの地域経済に壊滅的打撃を与え、産業面のみならず社会全体の崩壊につながる深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。

去る2月23日に行われた日米首脳会談後、安倍首相は「TPPでは聖域なき関税撤廃が前提ではないことが明確になっ



た」として、なるべく早い段階で決断したい旨を表明した。

この度の交渉参加については、「聖域なき関税撤廃」が前提でないとしても、オホーツク管内の農林水産分野の重用品目の全てが関税撤廃の対象から除外されるのか、医療、社会福祉、金融、保険、公共事業、労働市場などへの影響はどうなるのかといった具体的な情報がなく、いまだに国民的議論を行う状況になつていない。このような中で、TPP協定交渉への参加を表明されるようなことがあれば、極めて遺憾であり、到底受け入れられないものではない。

交渉参加について拙速な判断を行わないよう、オホーツクの関係機関・団体が一丸となり、これらの動きを阻止し、オホーツクの「地域」「経済」「生活」を守り、地方の声を訴えるべく緊急集会を開催したと述べています。この集会には、管内選出の道議会議員と衆議院議員が参加し断固として反対すると挨拶をしました。オール網走、オール北海道でTPP反対の一点で団結して阻止しましょう。

いよいよ東奔西走

3月議会の真っ只中です。正式には年が明けたので第1回定例会ですが、平成25年度の市政方針と予算案を審議する「予算議会」とも呼ばれています。

今回は、安倍政権の大型補正予算により「景気浮揚」と称して地方にバラマキ補助金と交付税措置がなされたので市も大型の補正予算を組み、ほとんどが25年度に繰り越しになるので、本予算とあわせて「15ヶ月予算」といわれるゆえんです。

補正予算の市負担分の8割をもつ「元氣臨時交付金」が満額くれば21億円といわれています。4月以降に額が判明次第、議会に実施事業を示すとのこととす

代表質問の中で、この国の景気対策予算を使って事業を行うことで「市内の雇用拡大にどれだけつながるか」と問いました。

市の答弁としては、「どの程度の規模の雇用が生まれるかは予測困難であるが、建設業関連を中心とした雇用拡大と地域経済活性化につながる」との答えでした。12日からの予算委員会でも質問していきますが、市民に役立つ施設づくりを視野にいれて頑張ります。

お補遺書

先週号で、暴風雪で車に閉じ込められたことを書きましたが、12日に質問の準備をして夜遅くに帰宅すると一枚のハガキが届いていました。

駒場南のYさんからでした。「さぞ、不安だったことでしょう。無事にご帰宅なされましたこと、うれしく有難いことと思わずにはいられません」という内容のものでした。

私こそ、有難い励ましをいただき涙の出る思いと、ご心配をおかけして申し訳なく感じています。

その方は、樺太からの引き揚者ですが、原発事故から2年が経ちテレビでは避難者の日々を放映しています。が、気の毒で言葉がありません。

ある方が「政府に捨てられた」といつていたことに、その気持ちよく分かりますと、引き揚げて来た者は、多くの助けがあったとはいえ「やっぱり棄民だった」と思わずにはいられませんと書いていました。私などには分からない苦労があったのだと思います。

流水

昨年、世界の科学界に大きな衝撃を与えたのは、京都大学山中伸弥博士のノーベル賞受賞でした。細胞分化が進み他の細胞には変われないと思われた皮膚細胞に四つの遺伝子を組み込むだけで、それをどんな細胞組織にも変え得る万能細胞（i ps細胞）にすることができるとを明らかにしたことでした。▼現在、遺伝性難病克服の先端にあるのがB S細胞を使う「再生医療」の分野ですが、この分野の困難点①倫理上の問題点、②細胞がん化の危険などを少なくし「再生医療」の分野に飛躍的な前進をもたらすものではないかと期待されています。▼そして早くもその実用化への第一歩がはじまりました。i ps細胞を使った世界で最初の臨床研究の申請が理研よりいただきました。「加齢黄斑変性」という失明にもつながる眼の病気の患者を対象とするものです。▼厚生省、文科省、各大学研究所などではこれを手始めに50に及ぶ研究班をつくり、パーキンソン病や重い心臓病、筋ジストロフィーなどの研究を進めることになりました。▼対策がないと考えられてきた神経性の難病で座して死を待つ患者、家族にとりi ps細胞の発見がどれほど大きな励ましになることか、今後の医学の進歩を期待して行きたいと思えます。(K)